

講演会：中国地方の地域特性をふまえた防災対策活動の現状

中国支部 構造委員会（清水斉・広島工業大学）

1. 目的

中国地方における地震災害に対する取組みは、全国的な対応と同様に、1995年の阪神・淡路大震災以降急速に進められてきた。地震被害想定調査が実施されるとともに、学校施設等の建築物の耐震化、防災施設の整備、震度計設置による震度情報の収集・提供や防災情報システムの整備・充実など、様々な防災対策が推進されている。しかし、中国地方の耐震化率は全国的に見ると低いレベルである。

いつ発生してもおかしくない地震災害への対応を効果的に実施するためには、最新の知見によって当該地域に密接に関わる地震被害の全体像を明らかにすることが必要である。

中国地方防災研究会では、中国地方の地域特性および地震・気象・地盤の特質を考慮しつつ、中国地方の防災対策に関わるテーマについて、研究討議し、広報するなどの活動を行っている。その活動内容は、インターネットや出版物を通じて公開されているが、今回は、一般市民、建築関係技術者、自治体防災関係者の方々に幅広く講演会を通じて情報公開し、防災に対する関心を高めていただきたいと考えてこの企画を実施した。

2. 実施日時・会場

日時：2013年11月22日（金）15:30～17:00（開場 15:00）

会場：メルパルクホール 6階 平成の間（住所：広島市中区基町 6-36 メルパルク広島）

3. 講演概要

中国地方防災研究会の会長である岩井哲（広島工業大学）教授に、「中国地方の地域特性をふまえた防災対策活動の現状」と題してご講演頂いた。講演は以下に示す3つの内容について行われた。

① 広島県地震被害想定の見直し結果-死傷者多数の意味

広島県地震被害想定見直しの結果として、地震の振動による堤防の崩壊により、地震発生後約5分という非常に早い段階で、市街地に海水が浸入する危険性が指摘され、避難の遅れによる死傷者多数の評価内容について説明された。

② 既存木造家屋の耐震診断のすすめ-構造諸量の診断値への影響

2012年木造住宅の耐震診断の改定内容の説明があり、耐震改修で何を行うかが効果的であるかが示された。また、過去の耐震診断で安全であると評価された建物についても、再診断の必要が生じる場合があることが説明された。

③ 丘陵住宅地の盛土崩壊について-東日本大震災から2年半後の状況

広島県は海と山に挟まれ平地が少なく、丘陵宅地が多い。盛土崩壊に関する防災対策は広島県として欠かすことの出来ないポイントであることを踏まえ、東日本大震災における丘陵住宅地の盛土崩壊状況とその復旧に関する調査報告が行われた。

4. 良かった点・改善点

良かった点

- ・交通の利便性が良い広島市中心部で開催する事が出来た。
- ・県や市等の自治体、建築関係団体への広報に加え、マスコミを使った広報を実施することができた。

改善点

- ・広島市における講演の集客は50人前後が妥当である。

5. 今後の支部の活動内容

今年度は広島市で実施した。来年度以降、順次、中国地方の主要都市で防災に関する講演会を実施したい。

